

平成28年度建設経済常任委員会所管事務調査

調査事項「中小企業活性化」について

(目的)

建設経済常任委員会が本年度掲げているテーマである、中小企業活性化について、商工会との意見交換を図り課題を把握する。

記

1. 開催日時 平成28年12月13日(火) 午後2時から3時30分まで
2. 開催場所 京田辺市商工会館
3. 出席者
 - ・商工会役員5名 鈴木副会長・久村副会長、各部部长3名
 - ・建設経済常任委員7名
4. 委員長挨拶及び自己紹介
5. 意見交換会

(1) 各部会の活動報告

◇商工部会

・「まちゼミ」…今年度、お店の人が講師となってプロならではの知識やコツを無料で教えてくれる少人数制のミニ講座を2回開催している。お店のファンになって頂き、まちを活性化させる取り組みである。

・「まちバル」…ワンドリンク・ワンフード(1食600円~700円)で、さまざまな店をまわってもらい、普段は入らないお店に入ってもらえる利点がある。これまで3年間続けてきた。

・「ポイントカード事業」…買い物をして頂くと1%のポイントがつく。現在、加盟店は約40店舗である。今後は、さらに加盟店を増やしていきたい。

・「100円商店街」…お店の一番奥に100円のもの置いて、他のものも見てもらう工夫をしている。

◇工業部会

市内企業のPRとして、異業種交流会を京田辺市と近隣の市町村とで行っている。昨年は久御山町、今年は生駒市と行った。また、市内企業とのつながりでも、どのような設備や技術があるのか把握できていないので、リストアップしデータ化することによって、市内で仕事をまわせるようにしていきたい。

◇建設部会

建設業は、平成12年がピークで、その後、公共投資が少なくなってきた。国・府・市に対しては仕事量の確保をお願いしたい。現在は、技術職の人材不足が大きな課題である。また、京田辺市安心な住まいづくり協議会として、府・市の受け口として、木造耐震改修工事の普及活動を行っている。

(2) 産業振興ビジョン基本方針から意見

① 地域との関わりについて

・工業部会では、市内企業と市民が一緒になって、工場巡りを企画している。大手企業なら就職希望があるが、市内の中小企業になると希望がない。まずは市内にどのような企業があるのかを知ってもらうことが必要である。

京田辺市には、大学や高校もある、今年度の計画では、田辺高校の生徒と一緒に企業巡りを行う計画もある。来年度以降は、1日4社（午前午後）10～15人程度の企業見学も行いたい。

・災害時には、府や市から建設業協会（市内37社）に緊急要請があった。地元業者は、電話1本があれば、すぐに対応できるが、その業者が消えつつある。

② 担い手の確保、育成について

建設部会の現況では、いま関東を中心に仕事があり人材不足（技術職）がおこっている。大手企業ですら人材を確保することが困難である。求人説明会を開催しても学生が集まらないので、取り合いになっている。10年後は誰が仕事をするのかわからない状況である。最終的には、利益のあるうちに会社を買ってもらうM&Aも考えている企業が増えている。

・小売や製造業でも、利益がでないため息子に継がせることができない。

③ 環境整備について

・新田辺駅東商店街では、事業者も高齢になっており、これからも新規開業は望めない。その点では、後継者が少しでも継承できるように、市も考えてほしい。

・市北部地域では新名神高速道路やプロロジスなどが進出しており、交通の要所となっているが、店舗の移転先を探しても工場の誘致場所が少ない。

・八幡市にコストコやムサシができてから、土日は常に交通渋滞が発生している。今後、松井山手地域に温泉施設とホテルができるが、さらに交通渋滞が増加するのではないのか。

・大手だけが進出すると周りが必ず潰される。しかし、自分達では集客ができないので、そのまわりに商店が張り付いていくことしか、いまは考えられない。

・府北部の除雪業者は、道路舗装工事もあわせて仕事を受注しているが、府南部は伊賀まで北部の業者がきて道路舗装工事を行っている。入札発注方法も地域のことを考慮してほしい。

④行政との関わりについて

・一般競争入札では、市外業者の参入がある。主に舗装となると府の大きな企業が入る。我々としても、それだけ落札できる確率が低くなる。市内業者に発注する工夫をしてほしい。

・9月補正の中央体育館屋上漏水対策費2300万円について、建築業者の防水工事で扱えるのに、防水屋に直接出しているので参加できなかった。我々に技術力がなければ仕方ないが、市内でできる工事は、市内に出してほしい。

以上